

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

| | | | | |
|---|--|----------------|--|-----------------|
| 施策体系コード | 3-2-3 | | 事業名 | 優しさと思いやりのバリアフリー |
| 担当 | 保健福祉局保健福祉部高齢福祉課 松本 TEL 211-2976 | | | |
| 全 体 計 画 | | | | |
| 事 業 内 容 | <年度別の事業内容> | | | |
| | 平成19年度 「優しさと思いやりのバリアフリー検討部会」設立 スケジュール及び課題の把握・整理の検討 | | | |
| | 平成20年度 課題に基づいた具体的な対応策についての検討 | | | |
| | 平成21年度 実施案の検討 | | | |
| 平成22年度 運用開始 | | | | |
| 平成19年度事業内容(決算) | | 平成20年度事業内容(決算) | | |
| 事 業 内 容 ・ 量 ・ 場 所 | 部会1回開催・事業費0千円(福祉のまちづくり推進会議として開催しているので、推進会議運営費から支出) | | 部会3回開催・事業費0千円(福祉のまちづくり推進会議として開催しているので、推進会議運営費から支出) | |
| | 平成21年度事業内容(決算) | | 平成22年度事業内容(予算) | |
| 規 模 ・ 件 数 等 | 部会4回開催予定・事業費0千円(福祉のまちづくり推進会議として開催しているので、推進会議運営費から支出) | | 運用開始・事業費0千円 | |

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

| 施策体系コード | 3-2-3 | | 事業名 | 優しさと思いやりのバリアフリー | | | |
|--|---------------------------------------|---------------|---------------|-----------------|---------------|---------------|--|
| 達成目標の状況 | | | | | | | |
| 項目 | 18年度末 (現状) | 19年度末 (実績) | 20年度末 (実績) | 21年度末 (実績) | 22年度末 (予定) | 22年度末 (目標) | |
| 優しさと思いやりのバリアフリーのルール策定 | 検討 | 検討 | 検討 | 検討 | 策定 | 策定 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況) | | | | | | | |
| <p>■市民との連携、市民参加 障がい者団体や高齢者団体などからの委員や公募委員も参加している「第5期札幌市福祉のまちづくり推進会議」(任期2年)のなかに「優しさと思いやりのバリアフリー部会」を設置し、検討を行った。 また、新たに運用開始するシステムは、高齢者・障がい者の協力を得て実施する。</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力] (該当なし) [人材協力] 推進会議には、北海道建築士会、ハイヤー協会、バス協会、ホテル協会といった関係事業者から推薦を受けた委員も参加している。 [情報協力] (該当なし) [その他の協力] 新たなシステムを運用するに当たり、高齢者団体や障がい者団体が連絡調整等の協力をを行う。</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり できるだけ個々の委員の都合に配慮して会議の日時を設定している。</p> | | | | | | | |
| 評価(成果) | 課題 | | | | | | |
| 検討部会において、新たなバリアフリー基準の基本的な考え方や実施するシステムの検討を行うとともに、庁内関係部局の調整会議を開催し、運用に向けての枠組みを策定した。 これをもとに、推進会議において、検討結果についての報告書をとりまとめ、「施設整備を行う際に高齢者や障がい者団体にチェックを依頼するシステム」及び「危険箇所を発見した場合の通報・対処システム」の2つの新たな仕組みを要綱化することとなった。 | 新たに運用開始するシステムが、効果的に機能するよう工夫していく必要がある。 | | | | | | |
| 今後の事業の予定・方向 | | | | | | | |
| 新たなシステムについて、今年度中に要綱化、運用開始する。 また、実際に運用したうえで、福祉のまちづくり推進会議を通して、システムの改善等も含めて機能を検証していく。 | | | | | | | |

様式イ

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)